



# 日本スーパーマーケット協会

## 平成16年8月 マンスリー レポート

集計企業数 **60** 社

### 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	36,314,143 万円	100.0%	102.0%(104.7%)	33,990,322 万円	97.4%(100.3%)
食 料 品	29,311,130 万円	80.7%(79.5%)	102.9%(105.1%)	27,671,363 万円	98.6%(101.0%)
農 産	4,318,104 万円	11.9%(11.3%)	100.3%(103.0%)	4,075,013 万円	96.0%( 98.9%)
水 産	3,280,531 万円	9.0%( 8.9%)	98.5%( 99.7%)	3,096,813 万円	94.1%( 95.4%)
畜 産	3,204,555 万円	8.8%( 8.4%)	102.0%(100.5%)	3,022,210 万円	97.4%( 96.3%)
惣 菜	2,853,729 万円	7.9%( 7.4%)	104.0%(106.2%)	2,610,827 万円	99.2%(101.4%)
日配食品	6,781,497 万円	18.7%(18.9%)	104.1%(107.1%)	6,385,782 万円	99.7%(103.0%)
加工食品	8,872,714 万円	24.4%(24.5%)	105.0%(108.1%)	8,480,718 万円	101.0%(104.3%)
生活関連	2,995,236 万円	8.2%( 8.5%)	95.8%( 98.6%)	2,783,302 万円	92.1%( 95.3%)
衣 料 品	1,836,782 万円	5.1%( 6.1%)	94.8%(102.9%)	1,690,207 万円	90.7%( 98.9%)
そ の 他	2,170,995 万円	6.0%( 5.9%)	105.7%(111.2%)	1,845,450 万円	95.2%( 99.6%)

### 数 値

全店総売上高	36,314,143 万円	店 舗 数	3,301 店舗
総売場面積	5,729,880.4 m <sup>2</sup>	総従業員数	170,566 人

店舗平均月商	11,001.0 万円	平均客単価	1,881.1 円
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	6.3 万円( 6.2 万円)	平均店舗面積	1735.8 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	21.0 万円(20.6 万円)	パート比率(前月)	74.6%( 73.8%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 全体概況

- ・ 昨年よりも土曜日が1日減。また、曜日周りの影響からお盆の期間も短く、先月の好調を維持できなかった
- ・ 上旬までは先月同様高温が続き、夏物商材を中心に好調に推移した。しかしお盆を境に気温が下がったため、秋物商材への移行が急激に進み、売り場の切り替えに苦労した
- ・ 客数は増加しているが、客単価がそれ以上に下落している。お客様が商品ごとにお店を使い分けている、といった声も聞かれる
- ・ 度重なる台風の上陸により、停電による営業の中止など、売上に対する影響はもちろんのこと、水産物の不漁やりんごの落下など、農水産物の出荷にも多大な影響を及ぼした
- ・ 日中の気温が高かった影響から、ピークタイムが夕方過ぎまでずれ込んだ

## 商品動向

### 農産

- ・ 野菜は、レタス、きゅうりなどのサラダ商材の相場が安値であったため、数量は売れているものの、売上は昨年を割る結果となった
- ・ 果物は、7月からの高温の影響から、出荷が前倒しになっている。相場は高値で推移したが、品切れも発生し売上は伸び悩んだ

### 水産

- ・ 全般的な売上は依然として低調だが、高温の影響によりうなぎは先月に続き好調に推移した
- ・ さんまは豊漁となり、価格も安く、昨年比105～115%と好調な売れ行きとなった。しかし全体を押し上げるまでには至らなかった

### 畜産

- ・ 豚肉は昨年比110～120%と引き続き好調だが、焼肉商材の不調により、牛肉の売上が伸び悩んでいる
- ・ 牛肉、豚肉ともに高値で推移しており、売上は取れても利益の確保が非常に難しい状況となっている

## 惣菜

- ・ 前半は、先月に続きサラダメニューや麺セット、寿司などが好調に推移した。後半に入り気温が下がり始め、揚げ物、いなりなどが動き始めた
- ・ 天候、気温の影響からか、特に夜間の簡便ニーズが高くなっている。取り組みによっては大きく売上が伸びている

## 日配・加工食品

- ・ 日配食品は、アイス、ところてんなどが先月に続き好調。後半気温が下がると、売上は鈍化した。逆にそれまで不調だった、パンなどの売上が伸びてきた
- ・ 豆乳、黒酢などの健康食品は依然として高い人気を保ち、通常より高い商品も売れている
- ・ 加工食品は、飲料を中心に涼味商材が好調を維持している。しかし、乾麺、麺つゆなどは、後半気温の下降とともに失速した
- ・ 高温に加え、オリンピック、台風が重なり、レトルト商品などの簡便商材が好調に推移した

## その他

- ～お盆商戦について
- ・ 刺身、寿司は、販売点数は増加したものの、単価が大幅に下落している。お盆期間中でも2千円を超える商品はほとんど動かない
  - ・ その他の商品に関しても、単価の下落が激しくなっている。売れる商品もベーシックなものの比率が上がってきており、売り場作りが難しくなっている
  - ・ 高温の影響もあり、ビール、日本酒などのアルコール類の売上は軒並み好調となった
  - ・ 暑さの影響からか惣菜や、レトルトなどの簡便商材の売れ行きが全般的に好調に推移した
  - ・ 天候の影響でぶどう、桃などが前倒しの出荷となり、売りたいタイミングで商品が足りない、といった状況もみられた
  - ・ 花卉、お供え物に関しては堅調な売れ行きとなっていることから、需要としては依然として根強いものがあるが、年々形骸化し、小型化による単価の下落が進んでいると思われる

～オリンピック期間中の売上動向について

- ・ 競技の時間が深夜になることもあり、ピザなどの夜食メニューが昨年比2倍になるなど売上を伸ばした。しかし、全体をみるとそれほど大きな売上の変化はなかった
- ・ レトルト商品など、簡便性のある商品の売上が全般的に好調な売れ行きをみせたが、これは暑さによる効果だとする声もある
- ・ オリンピックマーク入りの商品を拡充し販促をかけた企業も多かったが期待したほどの売上効果はなかった
- ・ 時間帯別の売上に関しても、若干19時以降の客数が減ったという声も聞かれるが、ワールドカップほどの影響はなかった

～秋物商材の動向について

- ・ 高温の影響から、リンゴなどの果物が軒並み前倒しの出荷となった。結果、展開も早まり、全般的な売上も好調な出だしとなっている
- ・ マツタケは相場も安定しており、値ごろ感が出せたため、好調な売上となった
- ・ さんまは豊漁により、価格も安定したことから、売上も好調に推移している
- ・ 中旬まで非常に気温の高い日が続いていたため、おでん種などは展開しにくい状況となり、売上も伸び悩んだ
- ・ 残暑が続くとの予報を裏切り、後半気温が低下したため、夏物商材が余り、秋物商材の展開が遅れた、との声も聞かれた